



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月9日

上場会社名 株式会社 共立メンテナンス 上場取引所 東
コード番号 9616 URL <https://www.kyoritsugroup.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 幸治
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 高久 学 TEL 03-5295-7778
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	182,573	7.1	19,007	6.6	19,507	5.8	14,303	12.2
2025年3月期第3四半期	170,442	12.8	17,832	31.3	18,444	38.5	12,752	60.8

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 14,956百万円 (13.8%) 2025年3月期第3四半期 13,148百万円 (61.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	173.85	157.17
2025年3月期第3四半期	163.38	140.29

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	323,620	133,290	41.2	1,519.31
2025年3月期	301,470	99,360	33.0	1,272.69

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 133,290百万円 2025年3月期 99,360百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	16.00	—	22.00	38.00
2026年3月期	—	23.00	—		
2026年3月期（予想）				23.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	274,000	19.7	25,000	22.0	25,000	16.7	18,000	23.6	213.42

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2025年4月1日から2026年1月31日までになされた新株予約権の行使により、12,804,084株の新株発行を行っております。2026年3月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該新株発行の影響を考慮して算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期3Q	88,055,503株	2025年3月期	78,439,636株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	324,590株	2025年3月期	368,148株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期3Q	82,271,345株	2025年3月期3Q	78,054,597株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載することとしております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、引き続き緩やかな回復基調が見られましたが、物価上昇に伴う個人消費の伸び悩み、米国の通商政策や地政学的リスク等により、依然として先行き不透明な状況が継続いたしました。

このような中、当社グループにおきましては、物価上昇の影響を受けたものの、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）による宿泊需要の増加や、訪日外客数が年間で4,200万人を突破し過去最高を記録（出典：日本政府観光局「訪日外客数」）するなど継続的な訪日旅行人気の高まり等もあり、好調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は182,573百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は19,007百万円（前年同期比6.6%増）、経常利益は19,507百万円（前年同期比5.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は14,303百万円（前年同期比12.2%増）となり、第3四半期として2期連続での最高益更新となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①寮事業

寮事業では、4月に全国で合計12事業所、1,364室を新たに開業し、期初稼働率97.4%（前年と比べ0.4ポイント増）にてスタートいたしました。中期経営計画の達成に向けた成長戦略の一環として、引き続き首都圏や関西圏など大都市圏への出店に加えて、未出店エリアの岡山、高松、徳島へ進出するなど、お客様のご要望に幅広くお応えする体制を整備するとともに、岡山に『中四国支店』を開設し、営業体制を強化いたしました。学校様との新規提携契約の獲得や、企業様の採用人数の増加に加え、企業様運営寮からの代替ニーズにもしっかりと対応し契約数が伸びる中、運営コストの上昇に対応するべく、販売価格の適正化にも取り組んで参りました。

この結果、コスト上昇や開業費等を吸収し、売上高は42,593百万円（前年同期比5.8%増）、営業利益は4,127百万円（前年同期比2.2%増）となりました。

②ホテル事業

ホテル事業では、当期に『天然温泉 若狭の湯 ドーミーイン敦賀』、『天然温泉 三刀屋の湯 ドーミーインEXPRESS出雲の国 雲南』、『天然温泉 肥後の湯 御宿 野乃熊本』をオープンいたしました。

旺盛な国内需要や、訪日外客数の最多更新など、市況が好調に継続する中、お客様のニーズを的確に捉え、積極的な販売活動やレベニューマネジメント（販売価格の適正化）を徹底したことなどにより、高稼働、高単価にて推移いたしました。また、法人向け会員プログラム『詩季倶楽部』、個人向けメンバーズアプリ『Dormy's』の会員獲得や、フロント手続きの省略を可能とするスマートチェックインシステム『快速チェックイン』の導入拡大など、お客様の利便性の向上と併せて労働生産性の効率化を引き続き推進いたしました。

この結果、顧客満足度向上のための大規模リニューアルに伴う休館・工事費用の発生や、食材費やリネン清掃費をはじめとするコスト上昇、及び日中間の政治的問題に起因する影響にも対応し、売上高は113,623百万円（前年同期比7.2%増）、営業利益は18,433百万円（前年同期比10.7%増）となりました。

③総合ビルマネジメント事業

総合ビルマネジメント事業では、設備管理や清掃などの案件が好調に推移したものの、前期に発生した大型改修工事案件が減少したことによる対比減や、人件費の増加などにより、売上高は14,710百万円（前年同期比10.3%減）、営業損失は115百万円（前年同期は438百万円の利益）となりました。

④フーズ事業

フーズ事業では、ホテルレストランの受託案件が増加したことなどにより、売上高は10,516百万円（前年同期比11.5%増）、営業利益は450百万円（前年同期比100.5%増）となりました。

⑤デベロップメント事業

デベロップメント事業では、不動産流動化の実施や開発案件の増加などにより、売上高は6,795百万円（前年同期比42.0%増）、営業利益は528百万円（前年同期比289.7%増）となりました。

⑥その他事業

その他事業は、シニアライフ事業（高齢者向け住宅の管理運営事業）、PKP事業（自治体向け業務受託事業）、単身生活者支援事業、保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業であります。これらの事業の合計は、売上高は14,669百万円（前年同期比9.5%増）、利益に関してはシニアライフ事業での開業費用増加の影響などにより240百万円の営業損失（前年同期は14百万円の利益）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、323,620百万円となり、前連結会計年度末に比べ22,150百万円の増加となりました。主な要因は、販売用不動産の増加などによるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は、190,330百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,778百万円の減少となりました。主な要因は、1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債やその他流動負債（前受金）の減少などによるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、133,290百万円となり、前連結会計年度末に比べ33,929百万円の増加となりました。主な要因は、資本金、資本剰余金及び利益剰余金の増加などによるものであります。

この結果、自己資本比率は41.2%となり、前連結会計年度末に比べ8.2ポイントの増加となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、現時点では、2025年5月15日の公表数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,675	20,705
受取手形、売掛金及び契約資産	18,301	19,664
販売用不動産	8,602	32,777
仕掛販売用不動産	7,951	10,116
未成工事支出金	822	731
その他	8,276	10,863
貸倒引当金	△53	△56
流動資産合計	69,576	94,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	51,821	58,208
土地	54,784	52,863
建設仮勘定	42,002	32,923
その他（純額）	6,365	6,477
有形固定資産合計	154,974	150,473
無形固定資産	4,801	4,550
投資その他の資産		
投資有価証券	16,506	17,993
差入保証金	18,476	18,152
敷金	21,357	21,641
その他	15,661	15,961
貸倒引当金	△103	△105
投資その他の資産合計	71,899	73,643
固定資産合計	231,675	228,667
繰延資産	218	150
資産合計	301,470	323,620

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,220	8,585
短期借入金	26,153	64,974
1年内償還予定の社債	4,680	4,680
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	30,022	7,470
未払法人税等	4,286	2,894
賞与引当金	3,686	2,605
役員賞与引当金	715	568
その他	29,328	16,859
流動負債合計	108,093	108,638
固定負債		
社債	9,020	6,280
長期借入金	78,749	68,787
退職給付に係る負債	1,038	1,153
役員退職慰労引当金	260	262
事業撤退損失引当金	140	131
その他	4,805	5,077
固定負債合計	94,015	81,692
負債合計	202,109	190,330
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,964	19,234
資本剰余金	13,016	24,390
利益剰余金	77,193	87,790
自己株式	△299	△264
株主資本合計	97,875	131,151
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	894	1,425
繰延ヘッジ損益	1,107	1,208
為替換算調整勘定	△596	△550
退職給付に係る調整累計額	79	55
その他の包括利益累計額合計	1,485	2,139
純資産合計	99,360	133,290
負債純資産合計	301,470	323,620

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	170,442	182,573
売上原価	126,633	133,985
売上総利益	43,809	48,587
販売費及び一般管理費	25,976	29,580
営業利益	17,832	19,007
営業外収益		
受取利息	115	116
受取配当金	126	126
持分法による投資利益	986	1,043
その他	173	282
営業外収益合計	1,401	1,568
営業外費用		
支払利息	546	822
その他	242	246
営業外費用合計	788	1,069
経常利益	18,444	19,507
特別利益		
投資有価証券売却益	—	93
特別利益合計	—	93
特別損失		
災害による損失	215	184
その他	—	8
特別損失合計	215	192
税金等調整前四半期純利益	18,228	19,407
法人税等	5,476	5,104
四半期純利益	12,752	14,303
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,752	14,303

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	12,752	14,303
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	222	530
繰延ヘッジ損益	194	101
為替換算調整勘定	△13	43
退職給付に係る調整額	△18	△23
持分法適用会社に対する持分相当額	10	2
その他の包括利益合計	395	653
四半期包括利益	13,148	14,956
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,148	14,956

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により、資本金が11,269百万円、資本剰余金が11,260百万円増加しております。これにより、当第3四半期連結累計期間末の資本金は19,234百万円、資本剰余金は24,390百万円となっております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（会計方針の変更に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
減価償却費	5,597百万円	6,613百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	寮	ホテル	総合ビル マネジメ ント	フーズ	デベロッ プメント	計				
売上高										
外部顧客への売上高	39,999	105,787	6,067	1,492	4,215	157,562	12,880	170,442	—	170,442
セグメント間の内部 売上高又は振替高	264	188	10,341	7,938	568	19,300	518	19,818	△19,818	—
計	40,263	105,975	16,408	9,431	4,783	176,862	13,398	190,261	△19,818	170,442
セグメント利益 又は損失(△)	4,039	16,657	438	224	135	21,496	14	21,510	△3,678	17,832

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シニアライフ事業(高齢者向け住宅の管理運営事業)、PKP事業(自治体向け業務受託事業)、単身生活者支援事業、保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業、その他の付帯事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△3,678百万円には、セグメント間取引消去△238百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,440百万円が含まれております。全社費用は主に本社の経理部等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	寮	ホテル	総合ビル マネジメ ント	フーズ	デベロッ プメント	計				
売上高										
外部顧客への売上高	42,309	113,376	6,360	1,667	4,769	168,484	14,089	182,573	—	182,573
セグメント間の内部 売上高又は振替高	284	246	8,350	8,848	2,025	19,754	580	20,335	△20,335	—
計	42,593	113,623	14,710	10,516	6,795	188,239	14,669	202,909	△20,335	182,573
セグメント利益 又は損失(△)	4,127	18,433	△115	450	528	23,424	△240	23,183	△4,175	19,007

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シニアライフ事業(高齢者向け住宅の管理運営事業)、PKP事業(自治体向け業務受託事業)、単身生活者支援事業、保険代理店事業、総合人材サービス事業、融資事業及び事務代行業、その他の付帯事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△4,175百万円には、セグメント間取引消去△27百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,148百万円が含まれております。全社費用は主に本社の経理部等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。